

『言語文化』創刊にあたって

同志社大学言語文化学会会長
中 井 農

同志社大学言語文化学会が1998年4月に発足し、ここに機関誌『言語文化』の創刊が実現した。目指すところは、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語・ロシア語・中国語・ハンガルに関わる言語と文化の研究であり、さらに、その個別の領域を越えて、ダイナミックに展開することにある。

当学会の基盤は、同志社大学言語文化教育研究センターにある。1993年4月に開設された「外国語および言語文化・外国文化に関するカリキュラムを全学的に提供する教育研究組織」である。ただし、開設後も教員は従前どおり、同志社大学人文学会と同志社大学外国語文学会とに属し、それぞれの機関誌を研究成果発表の場としていた。新しい教育研究組織にふさわしい新しい学会の設立と機関誌の刊行は、5年来の懸案であった。

新しい学会の発足にともない、会員は同志社大学人文学会を離れ、また、同志社大学外国文学会はその役割を終えた。これまでの研究成果については、1998年3月の、「『同志社大学英語英文学研究』総目次」(同誌第70号)および「『同志社外国文学研究』総目次」(同誌第80号終刊記念号)を参照していただきたい。

『言語文化』の成果は、関連領域の研究者にとどまらず、異なる領域の研究者はもちろん一般の読者にたいしても、広く還元されなければならない。インターネット上での公開は必然である。創刊を機にこの方策を採用した。当面、その範囲は学内に限定されるが、技術的な問題点を克服しつつ、さらに広げられることになっている。

新しい地平は、いま拓かれようとしている。